

東京にふるさとなまりの花が咲く

八竜町(旧鷺川村、浜田村を合体)

十一月二十九日、首都圏在住の八竜出身者で構成する「東京八竜会」の総会・交流会が、東京・台東区民会館の精養軒で開催された。

総会では、事業経過・決算報告・事業計画案などを協議し、今後の行動の指針とする青年部・婦人部の発足などを決めた。

引き続き行われた交流会には、一四七名の会員が参加し、町から駆けつけた町長・議会議員・婦人会・農協青年部などの三二名と合流。懐かしい名前を呼び交わし、ふるさとなまりが飛び交って、会場のあちこちに、酒酌みかわしながらのふるさと談義に花を咲かせる光景が見られた。

キリタンポ・佃煮・イカメシ・ナタ漬・梅漬などの即売、試食コーナーに設けられたキリタンポ鍋・漬物には沢山の人がだかり。懐かしい味を楽しんだ。

今回八竜から持参した『メロンの里から・八竜ふるさとステージ』のビデオ放映では、画面に懐かしい友の顔や最近の故郷の様子が見いだして、何度も歓声がわき起こった。

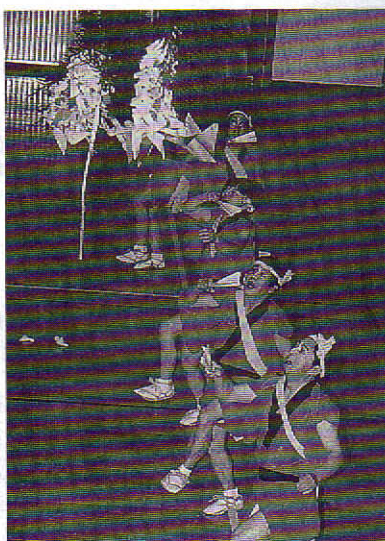
あらためて、ふるさとの大切さ・ありがたさが身にしみて、ふるさととの絆を確かめ合う一日だった。

新役員《敬称略》
会長 川村幸信(松戸市・大口出身) 副会長 三浦仙雄(川口市・鷺川出身)、阿部稔(横浜市・浜田出身)、金子秀雄(墨田区・大口出身) 監事 大沢敏夫(立川市・大曲出身)、伊藤春(練馬区・鷺川出身) 幹事 檜森 宏(江戸川区・浜田出身)

恒例の郷土芸能発表会開催

青森県西津軽郡岩崎村

春まだ遠いみちのくの一月十五日(成人の日)に、村総合スポーツセンターに村民約三百名が集まって、第二三回芸能発表会と第七回郷土芸能発表会が開催された。芸能発表会は冬の娯楽の一つとして毎年行われているもので、村内各地の婦人学級や三味線愛好会などいろいろな団体が、歌や踊りなど日頃の研鑽の成果を存分に披露して、詰めかけた観客に盛大な拍手を送られていた。



郷土芸能発表会は、村内の伝統ある芸能を保存し、広く村民に知ってもらうため一年おきに開催されている。今年も岩崎地区から「花上げ踊り」、「御慶山踊り」、沢辺地区から「もちつき踊り」、大間越地区から「獅子舞」と十数年ぶりに地元有志により復活した「大間越山かけ踊り」が参加した。沢辺地区の「もちつき踊り」では、踊りの終了後にお祝いとして、紅白の餅が配られ、観客を大いに喜ばせた。

香りのオーナー「石川そば」作りに挑戦

峰浜村(旧沢目村、塙川村を合体)

峰浜村では、平成四年五月から、ハーブ(芳香性植物)を栽培から加工まで体験できるうきうき農園に「香りのオーナー」を募集した。応募した六六名のオーナーには、一人約二十坪の畑が貸し出されここから、ラベンダーのほかミントやタイム、カモマイルなど、さまざまなハーブが収穫された。これまで栽培実習やハーブカルチャーへの参加など、すでに五回の「香りのオーナー」交流会がもたれてきたが、さる十二月十三日、田中生活改善センターで第六回目の交流会が開催された。

この日参加した四十名のオーナーたちは、石川の福士テルさんを講師に、「石川そば作り」に挑戦した。隠し味に自らの手で栽培加工したミントやタイムを使うなど、そば粉からできあがりまでの一連の作業を、それぞれに楽しみながら体験した。



また、農園での一年を振り返っての話し合いでは、「もつと村の人たちとの交流がほしい」とか、「ハーブだけでなくいろいろ教えてもらいたい」などの意見が相次ぎ、積極的な意欲を見せていた。

トンネル跡の活用ー山ウド栽培

二ツ井町(旧二ツ井町、富根村、種梅村、荷上場村を合体、響村を編入)

二ツ井では、減反転作をきっかけに始まった山ウド作りだが、トンネル跡を利用してウドの栽培に成功しているグループがある。JR二ツ井山ウド部会のメンバーで、総勢は十四名。

各地を視察研究の結果、昭和五四年に少しでも安定した農業をという願いから、それまで全く実績のないウド栽培に取り組むことになった。トンネルとは、荷上場地区の県道沿いにある元森林軌道敷。延長九八メートル、幅六メートルのかまぼこ型。「広さは申し分なく、気温さえ調節できれば栽培可能」という識者の意見に支えられ、平成元年五月からスターとした。林業の往時を伝えるトンネルも、昭和三八年に森林軌道の廃止以来、実に二六年ぶりに姿を変えて復活することになったのである。

栽培法は、四月末から五月にかけて株を畑に定植。翌年ほぼ一年後の四月に根株を掘り出し大型冷蔵庫に貯蔵し、六月からトンネル内の土床に植え込む抑制軟化栽培。植え込みが順次行われ、出荷が一月末から五月までの促成栽培が終わり、生産量が極度に少ない八月から十月にかけて出荷できるため、単価も高く取り引きできる。

トンネル内の栽培面積は、約一・五ヘクタールと少ないが、有利に栽培できることから、もちろん今後も続ける方針。

栽培の主力品種は、わせ種であつさりした白色系の「東武鯉玉2号」。最近人気が高い品種でもある。

二ツ井町のウドは作付面積、販売額ともに全県でのトップの位置を占めている。

首都圏でもじゅんさい大好評

山本町(旧下岩川村、金岡村、森岳村を合体)

去る一月二二日から二四日までの三日間、東京ドームにおいて「東京ドーム・ふるさとフェア」が開かれた。わが町からは「じゅんさい」「あきたこまちがゆ」「山菜」などの特産品を出品するとともに、町のPRに力を注いだ。

このふるさとフェアは、全国の「ふるさとの味」を一堂に集め、巨大消費地である首都圏にアピールしながら、地域の活性化を促進しようとするもの。三日間の入場者数は三十七万人にのぼり、三回目の参加となった本町の店頭も行列が途切れることがないほどの盛況ぶりを見せた。平成二年度から三年計画で行われたマーケティング事業を締めくくるとのフェアは、これまで参加した各種の物産・観光イベントの中でも最大と評価でき、特に「じゅんさい」のPRについては、抜群の効果を上げ、今後の販路拡大に大きく貢献するものと期待される。



今後、町では観光をメインとしたPRを行っていく計画で、それに先立って会場内で温泉と観光に関するアンケート調査を実施し、その集計結果を観光ビジョン作成に反映させている。

百万人に届かずー能代訪問の観光客

能代市(旧扇刈村、檜山町、鶴形村、浅内村、常盤村を編入)

能代市がこのほどまとめた、昨年一年間の観光客数は九十五万五千四百七十九人。

能代市の観光資源は、古くからの自然や名所、伝統行事、祭が主力だったが、最近はおなこりフェスティバル・風の松原フェスティバル・毘沙門まつり・檜山城まつり・高校バスケットボール能代カップなどの新しいイベントも人気がある。

主な伝統行事・イベント・名所などの人出は次のとおり。

- ▽能代七夕 四万九千人
- ▽子ども七夕 三万八千人
- ▽のしろ産業フェア 三万二千人
- ▽落合海水場 一万一千五百人
- ▽能代公園 つじまつり 一万五千人
- ▽能代公園 さくらまつり 一万四千人
- ▽嵐あげ大会 二万二千人
- ▽中の申嫁見まつり 三千人
- ▽日吉神社祭典 三千五百人
- ▽八幡神社祭典 七千人
- ▽檜山公園 一万一千五百人
- ▽大柄の滝など 一万五千七百九十人
- ▽能代公園 十三万七千九百六十四人
- ▽能代温泉 二十八万八千七百二十人
- ▽木材展示館 五百十九人
- ▽井坂記念館 二千九百四十三人
- ▽毘沙門まつり 三千人
- ▽風の松原フェスティバル 二千人
- ▽能代カッパ全国高校選抜バスケットボール大会 八千人
- ▽のしろ子どもまつり 五千人
- ▽おなこりフェスティバル 十五万人
- ▽苜蓿まつり 二万八千人
- ▽檜山城まつり 五千人
- ▽飾り七夕 八千人